

大磯コンソの活動概要

1. 大磯コンソの設立

- 大磯町内の地方創生の関係者有志とJapa日本専門家活動協会協の関係者で、2017年より約2年余の協議を重ね、2019年8月1日に正式に設立。
 - お披露目を兼ね、2019年度第1回全体会議及び懇親会（2019/10/02）〔於：大磯町商工会館〕を開催。参加者数 31名（来賓：大磯町 町長、副町長、関係部長）+メディア2社。

2. 移住定住関係

- 会員が、移住定住支援を目的とする「一般社団法人海鈴大磯（事業の一つとして、ふるさと回帰支援センター大磯）」を設立（2020/04/01）。大磯コンソとして、これを支援。
 - 設立に際し、東京に本部を置く特定NPO法人ふるさと回帰支援センター理事長と、大磯コンソ代表が当該社団の理事として参画
 - 設立後、大磯町と「大磯町移住・定住の促進活動に関する協定書」を締結（2020/11/24）。
 - 大磯町関係部署と毎月定期的に情報交換会の開催や、神奈川県・大磯町と連携して、移住セミナー・関係セミナー・ふるさと回帰フェアへの参加、春・夏・秋の大磯移住体験ツアーイベントの開催支援、及び移住定住相談、町内案内等の実施支援。
 - 大磯移住支援応援団として、関係案内人「磯人」ネットワークを構築

3. 空き家等遊休リソース活用関係

- 会員の「NPO法人西湘をあそぶ会」代表が進めていた大磯郵便局の遊休施設（コワーキング施設として利用）・敷地（保育園の移設）を借り受ける交渉過程において、大磯コンソとして、契約にあたり、大磯コンソとしての推薦書、及び保育園の移設に関する大磯町との円滑な手続き支援を実施。その後、それぞれ、開設に至っている。
- 会員（個人会員）がオーナーである禰龍館跡地（平屋の空き家を含む）を大磯町の活性化に役立つような利活用「遊びと癒しの拠点づくり」に向け、大磯町、大磯コンソ関係者等の支援の下、利活用の事業実施主体の探索を進め、2023年度に具体化をめざす道筋にある。
- 会員の（一社）海鈴大磯の代表が所有する空き家物件を活用し、（一社）海鈴大磯の新規事業の一つであるお試し居住用施設として活用するため、ボランティア有志の協力でリフォーム（2022年度）し、「海鈴母屋」として民泊と併用しながらの事業開始に向け準備中。大磯コンソ事務局が、運営体制づくり支援。2023年度、事業開始予定。
- 会員の合同会社アースビジョンが空き家を活用した「生涯安心の自活型シニアコレクティブハウス（女性シニア専用シェアハウス）遊縁堂」の立ち上げに際し、その前後の施設状態の視察と意見交換を実施。
- その後、自ら不動産事業を開始したことに伴い、大磯コンソサロンで議論を重ね、空き家を群として活用しながらまちづくりに活かす受け皿として「（一社）大磯空き家等活用まちづくり機構（仮称）」を創設する方向で大筋合意。2023年度の設立をめざす。
- 会員の㈱SGOソリューションズが企画している「合宿研修所（オトナの合宿所）」は、空き家や「協賛」会員の㈱ノジマの「ノジマ大磯スクウェア」等を利用しての可能性について検討中。

4. 新技術関係（新技術実証等）

- 都内に事務所を置いていた農業金融サービス(和牛保険デリバティブ等)を“大磯発”で興したい希望を有していたスタートアップ企業の代表者の移住及び事務所探し（2022/06 東京から事務所移転）、事業立ち上げ（所管官庁の人脈紹介等）を支援。
- 大手企業系列のソリューション企業が、LiDAR+カメラ技術を活用して交通流動解析への適用が可能かどうかの実証を東京工業大学の交通工学の教授の指導及び大磯町の協力を得て、大磯駅前広場で実施（2019/11 11/12～11/14）。技術の課題等を把握。
- さらに、大磯町と「新たな地域公共交通の構築に向けた連携と協力に関する協定書」を締結し（2020）、「大磯町地域公共交通会議」の会議構成員の交通事業者との意見交換や、地域公共交通に関する課題・ニーズを把握するアンケート調査を大磯町に協力する形で実施。
- 会員の東光院が、地域住民がお互いに見守りあい助けあえることができるように、既存機器では対応出来ない転倒や体調不良等にも適用可能な独居高齢者の実際の地域生活に即したIOT機器やAI解析など最新技術を利用した「高齢者共助型見守りシステム」の開発を思案中。
- 会員の「榊の森」が支援している新技術（発電床、狭域ドローン）について、実際に実証可能な場所が存在するかの確認を大磯町の関係部署の協力を得て実施。加えて、ドローンにはどのような技術水準が要求されるかについて、中堅ゼネコンの技術研究所所長を紹介し確認。
- 会員企業・協力団体の公募事業の申請支援
 - 会員「榊の森」+サレジオ高専による国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）[2023年度]への申請
 - テーマ内容：マグナス波力発電技術の研究開発・実証
 - 協力団体「インターネットITS協議会」+名古屋大学・星槎大学・大磯コンソによる科学技術振興機構研究開発事業（JST）[2023年度]の申請
 - テーマ内容：RealとVirtualの融合したコミュニイの場づくり

5. 自主事業・地元還元事業関係

- 大磯在住のイラストレーターが制作した「里山歩きマップ」（A3版両面 カラー印刷 2種類）の印刷支援の要請があり、大磯コンソとしてこれを支援。大磯町の2021年3月末配布の「広報誌」4月号と一緒に町内に全戸配布。
- 大磯町に非居住の大磯コンソの「会員」「協力」の方々や、大磯コンソに関心のある方々を対象に、大磯町を知っていただく「大磯町見学会」ツアー実施[参加者11名]（2022/03/01）。
 - ミニバスを借り上げ、大磯コンソ会員施設（4箇所）を含む大磯町全域を視察。
- 新たに開催された「大磯まつり」（2022/11/26）にオフィシャルサポーターとして協賛。
- 「大磯地方創生フォーラム2023」（2023/07/08）を「協賛」会員施設にて開催。

6. その他

- 会員の東光院フリースペースにおいて、毎月第3火曜日16:00～17:30（原則。状況に応じて変更あり）に参加者フリーによる「大磯コンソサロン」を開催。
- 会員及び関係者に、毎月1回、直近1ヶ月の活動概要を案内する「大磯コンソ便り」を配信。

以上